

Students' Voice

在学生からの声

留学で考えたこと 4年 長谷川 敦子

私は派遣留学制度を利用して、オーストラリアのモナシュ大学に9ヶ月ほど留学していました。モナシュ大学では、自身の卒業論文のテーマに関する犯罪学や人権論について学びました。毎週課題として沢山の文献を読むだけでなく、ディスカッションにも参加しなければいけなかったため、毎日とても忙しかったです。さらにそれを英語でこなすのはやはり難しく、気持ちが沈むことも何度もありました。

しかし、授業等での学習だけでなく、長期間にわたって何かに取り組むための計画力や、英語に限らず周りの人々とのコミュニケーションを円滑に行うための能力を育むことのできた9ヶ月間でした。

また、日本にいた時よりも現地では様々な考えを持つ人々と出会い、自身の考え方を改めて見つめ直すこともできています。そして、留学前の準備期間も含め、国内外の様々な人たちに支えられ、人々の温かさを感じる良い機会であったとも思っています。

千葉大学に入学した学生は留学が必須になります。その留学を、ただ海外に行って勉強するだけの期間、ではなく、将来に活かすことのできる経験を積むための期間と捉え、新入生の皆さんが留学を楽しめると良いなと思います。



学生の積極性を支援する学部 4年 永山 滉大

私が思う国際教養学部は、「自ら積極的に動く学生を、幅広い分野や場面で支援してくれる」学部です。この学部では文系理系問わないような専門を持つ教員方や、その指導の下で研究を行う学生たちとが、いろいろな形で交流し刺激しあっています。移民をテーマに研究している私は、社会福祉や教育、デジタルを専門とする教員や友人から新しい視点も学ぶことも多く、それを自分の研究につなげていくという日々を送っています。

上記の勉学でのサポートに加え、学生から提案してやりたいことを実現する機会もこれまで利用してきました。例えば、今回のコロナの際には元々あった Student SULA という学生相談窓口をオンライン化する提案が実現しました。学生目線で何でも話せる環境をオンラインで設置したことで、コロナの状況下で困っていた一年生の勉強だけでなく生活の悩みも把握し、対応する態勢ができました。この学部では、もちろん学生が自ら動くことが重要ですが、動いた先には学生をサポートする教員、事務、先輩方がいるので、ぜひ皆さんも自らの興味を国際教養学部で実現してみませんか。

